



# 県病医療ニュース

〒870-8511 大分市大字豊饒476番地 TEL097-546-7111(代表) 内線2322:県病ニュース係  
※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ホームページまたは、1階中央待合ホール備付けのアンケート用紙をご利用ください。

## 婦人科

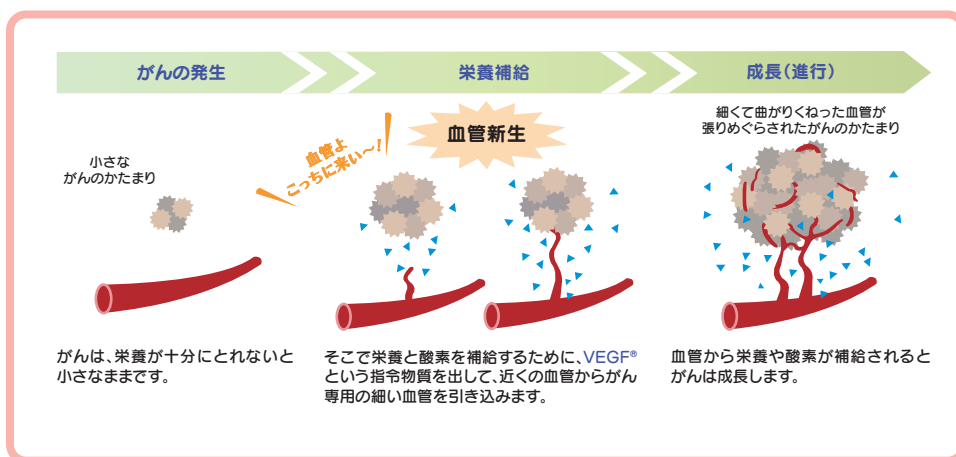
## 卵巣がん治療における新展開 ～分子標的治療薬による治療～

### 分子標的治療薬

分子標的治療薬と呼ばれる薬があります。この薬はがんをねらって作用し効果を発揮します。すでに大腸がんや乳がんなどで使用されてきています。

### がんとVEGF

ところで、がんは増殖と転移に必要な栄養をとるために、新しい血管を作る因子 VEGF(血管内皮細胞増殖因子)というたんぱく質を出し、近くの血管からがん専用の



新しい血管を作ってがんを引き込みます。そして新しい血管ができると、がんは十分な栄養や酸素が供給されて成長します。

今回、「卵巣がん」に対して**ベバシズマブ(商品名:アバスチン<sup>®</sup>)**という薬が新たに使用できるようになりました。この薬は、VEGFの働きを妨げる分子標的治療薬です。

### VEGFの働きを妨げる

この**ベバシズマブ(アバスチン<sup>®</sup>)**は、2004年2月に転移性の結腸・直腸がんの治療薬として米国で承認されて以来、様々ながん腫の治療ガイドラインで標準治療薬のひとつに位置付けられています。

国内では、2007年4月に「進行・再発の結腸・直腸がん」、2009年11月に「進行・再発の非小細胞肺癌」、2011年9月に「進行・再発乳がん」および2013年6月に「<sup>こうしゅ</sup>悪性神経膠腫(脳に発生する悪性腫瘍)への効能・効果が承認されています。



## 婦人科

# 卵巣がん治療における新展開

## ～分子標的治療薬による治療～

ベバシズマブ(アバスチン®)は、VEGFとくっついてVEGFの働きを妨げ、つまりがんへの引き込み血管をつくらせないように働き、がんが増殖、転移するための栄養、酸素の供給を妨げ、がんを小さくしていきます。

### 卵巣がんに対して

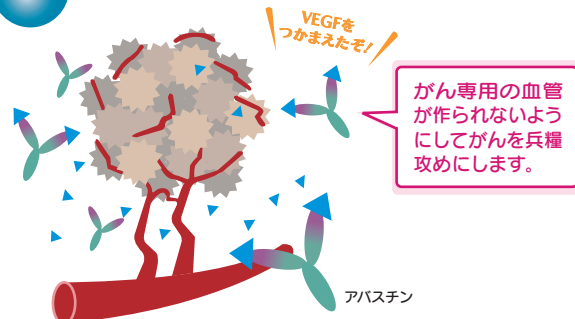
「卵巣がん」に対しては2013年11月に保険が適用されるようになりました。当科でも昨年より使用開始しており効果をあげています。

「卵巣がん」ではこれまでの標準化学療法にベバシズマブ(アバスチン®)を併用し、標準化学療法終了後にベバシズマブ(アバスチン®)を継続維持投与すると、むそうあくせいぞんきかん無増悪生存期間(治療後、がんが進行せず安定した状態である期間)が、標準化学療法のみ投与を受けた「卵巣がん」患者さんに比べて有意に延長することがわかりました。

### 安全性は

ベバシズマブ(アバスチン®)は、現在標準治療として用いられている薬とは異なり、種々の特徴的な副作用が認められています。卵巣がんでは、特に消化管穿孔せんこうが懸念されています。日本から臨床試験に参加された患者さんは数十例であり、日本人の「卵巣がん」患者さんにおける安全性に関しては、今後慎重に確認していく必要があります。

治療後



がんは縮小する

がんは栄養・酸素不足になることから小さくなります。

### 展望

また、プラチナ製剤抵抗性の再発「卵巣がん」患者に対し行われた臨床試験でも化学療法にベバシズマブ(アバスチン®)を併用した場合と化学療法単独とを比較しています。その結果、併用療法で無増悪生存期間が延長したというデータが出ています。

これまで、プラチナ製剤抵抗性の再発に対して有効な治療法がなかったこともあり、今回のアバスチン投与承認は、今後の卵巣がん治療に大きな変化をもたらすと考えられます。

(婦人科 副部長 嶺 真一郎)